# 京極読書新聞 ＜第13号＞

発行日　平成22年 6月　1日（火）
京極町生涯学習センター湧学館


# 京中生にインタビュー

## 第１回

京極町で行われている読書感想文コンクールも、昨年度でついに「第20回」を迎えるまでになりました。毎年、毎年、力作が目白押し。「京中生にインタビュー」では、全５回に分けて、中学生部門の入賞者全員に本のおもしろさを語ってもらいます。　＜編集部＞

## 吉川いずみさん（3年生）「14歳のノクターン」

———この本を選んだのは、やはり「14歳」だから？

吉川　そうです。「14歳（中学2年）」というタイトルにひかれました。

———読書感想文コンクール／中学2年生の部の柳原先生も選評でほめていましたけれど、感想文の「どんな大人にも十四歳の時がある。私は今、十四歳だ。」という書き出しはかっこいいですね。吉川さんも文才がありますよ。

吉川　ありがとうございます。この小説は、特に、現在小説家の加藤章子が50年前の14歳だった自分や友人たちを振りかえるという設定がいいんですね。

———印象に残った場面はどこですか？

吉川　やはり、ラストの、もう一度三上先輩に会おうと決心するところですね。章子の強い心を感じます。自分なら、こんなにまっすぐ頑張れるかなあと思いました。

———いい場面です。私もこのラストが好きなんですけど、この章子の決心に至るまでに、二人の親友だけじゃなくて、クラスのいろんな子が影響を与えあっているという描き方がよかったですね。私も、ああ、こういう子、クラスにいたよ！とか、なつかしく昔を思い出しました。

吉川　他のグループの子とか、がさつな男子とか。（笑）

———そうそう。今でもそんなには変わっていないんですね。

吉川　朝、髪型がうまく整わなかったら一日中ブルーだったりとか、親にやつあたりするとか、今の私たちと同じです。恋もして、友だちとの会話がいちばん楽しいとか。
私も、読む前は、50年前の14歳はもっと大人っぽくて、遠い存在なのだと勝手なイメージを持っていたのですけど、この本を読むうちに、身近に感じるようになりました。

———いくら今は大人でも、50年前は14歳の子どもですからね。でも、今、64歳の人が14歳の人と話をすることって、学校みたいな場所を除いたら、なかなかないでしょう。小説って、それを自然に実現させてしまうところがいいですね。

吉川　私も、みんなにこの本を読んでほしいです。

京極読書新聞は
毎月１日発行です。

2ページ目、3ページ目に続きます

# 佐藤匡哉くん（2年生）
## 「宇宙への秘密の鍵」「宇宙に秘められた謎」

———佐藤くん、会いたかったです。こういう本を選ぶ中学1年生（当時）って、どんな人なんだろうとずーっと思っていました。この本は、誰かのお薦めですか？

佐藤　お母さんです。僕が「宇宙」に興味を持っていることを知っていますので、それならということで、この「宇宙への秘密の鍵」を薦めてくれました。

———そうなんだ。お母さんですか。センスのいいお母さんですね。私は、なにか天文学好きのお兄さんとか男友だちの推薦とかを想像していたんですけど。

佐藤　「宇宙への秘密の鍵」を一気に読んでしまって、すぐに第2巻の「宇宙に秘められた謎」に突入しました。第1巻でイメージが確立したキャラクターたちが大活躍する第2巻は特におもしろかったです。

———完結編の第3巻が出版される2011年が待ち遠しいですね。ところで、この本、物語もおもしろいけれど、写真がすごい！ 私は昔の人だから、星の写真っていうと、地球から大望遠鏡で撮るというイメージしかなかったんだけど、この本見てショックを受けました。今は、見たい星に向かってどんどん探査ロケットを飛ばして撮影するのですね。

佐藤　信じられないくらい遠い何百億光年先の星団・星雲の写真が出ていますね。でも、写真もきれいで好きだけど、僕は、物語の各章に挟まっているコラムが大好きです。ホーキング博士の宇宙理論が、水を吸い込むように頭の中にどんどん入ってきます。何度も読んで、本もぼろぼろになってしまいました。

———ほんとだ。すごいねえ。読書感想文の最後を「そしてこの本の内容が僕の未来のためになる」と結んであったけど、あれはかっこいい決めぜりふでしたね。

佐藤　宇宙はとてつもなく広いです。僕はまだ宇宙のほんのちょっとしか分かってはいないのだと思います。けれど、分かることが一つでも増えると、なんか得した気分になり、ちょっぴり嬉しいです。僕はこの本に出会えて本当に良かったと思います。

———ところで、お母さんはビートルズのファンですか。

佐藤　？

———いや、この本、主人公の名前がジョージでしょう。宇宙へ連れて行ってくれる先生の名がエリック。ジョージをいじめる子どもの名前がリンゴとか、私たちビートルズ世代には思わずにやっとしてしまう本でもあるんですよ。

京中生にインタビュー
第1回

「14歳のノクターン」　さとうまきこ作/ポプラ社
「宇宙への秘密の鍵」「宇宙に秘められた謎」
ルーシー・ホーキング、スティーヴン・ホーキング作/岩崎書店

# 太島沙奈子さん（1年生）　「奇跡の犬タマ公」
# 森口紗江さん（1年生）　「郵便犬ポチの一生」

———どうですか、中学校の新しい生活は？

太島　勉強はぐーんとハードになったけれど、でも、楽しいです。特に部活動は。

森口　私も部活が楽しい。

———偶然なのか、お二人とも「犬」の物語を選んで入賞されているんですけど、やはり犬が大好きとか、そういうことがきっかけなのでしょうか。

太島　特に犬の話だからということではありません。ただ、普通、「タマ」ってネコにつける名前だと思っていましたから、血統の良い柴犬に「タマ」と名づけるのがおもしろいなあと思って興味を持ちました。

———そうですね。いわれてみれば「タマ」は不思議ですねえ。その点、「ポチ」は、じつに犬らしい名前というか。森口さん、この「ポチ」が京極町のとなり町、真狩村にいた犬だと知ってましたか。

森口　はい、知ってました。この本は、以前にも一度読んでいて、とても感動したので読書感想文にもとりあげようと思ったのです。真狩村の郵便局長・村上政太郎さんと出会わなかったら、捨て犬・ポチの運命ってどんなになっていたんだろうと思います。

———携帯電話も車もない昔ですからね。犬も、人間も、それぞれ自分の持っている力を全部出しきって助け合って生きていたんでしょうね。

太島　私も、タマの話でいちばん感動する場面は、雪崩にあった吉太郎さんを、冷たくて固い雪を手足から血を流しながらも掘り返して助け出そうとするタマの姿です。それも、二度も。タマからは「勇気を出す」ということを教えられました。

森口　私も、倒れてしまった政太郎さんを助けようと村まで人を呼びに行ったり、大吹雪の中で政太郎さんを自分の体で温め続けたポチの姿に感動しました。真狩村を去って、札幌の報恩学園に引き取られていっても、やはりそこで子どもたちを元気づけていたというのが、とてもいい話だなあと思います。

———後志には、もう一匹、「消防犬・ぶん」という有名な犬が小樽にいたんですけど、この犬の名は知っています？

太島　はい、聞いたことがあります。

———湧学館には「ぶん公」の本も入っていますから、いつか読んでみてください。最後に、最近読んでおもしろいと思った本を教えてください。

森口　私は「ダレン・シャン」がおもしろかったです。

太島　私は山田悠介さんの本に凝っています。

「奇跡の犬タマ公」　綾野まさる作/ハート出版
「郵便犬ポチの一生」　綾野まさる作/ハート出版

京中生に
インタビュー
第1回

# 京極から文学散歩　第2回　バイオレンスな有島武郎

湧学館司書　新谷　保人（あらや・やすひと）

まだ一冊も有島武郎の本を読んだことがない中学生に、いきなり「カインの末裔」を薦める人はおそらくいないでしょう。暴力的な描写や言葉があまりにもキツすぎるからです。たいていの場合は、無難な「一房の葡萄」とか「小さき者へ」などでお茶を濁します。でも、これをやると、どうしても釈然としない気持ちが残ってしまうのも正直なところなのです。これで、有島武郎という人を伝えたことになるのだろうか？と。

そもそもが、今の大人たちが有島文学の魅力に目覚めたのは、「一房の葡萄」を読んだからではありません。みんな、大正6年発表の「カインの末裔」、翌7年の「生れ出づる悩み」の二連発を浴びて、その、あまりのド迫力にガーンと打ちのめされたのです。「これだ！」「北海道の文学はこれなんだ！」と当時の人たちが驚喜した様子が目に浮かびます。

後年、「蟹工船」を書くことになる小林多喜二もそんなひとりでした。何度も何度も「カインの末裔」を模倣したような若い時の作品が残っています。日本中に多喜二みたいな青年が生まれていたのですね。そんな、日本の文学を大転換させるような作品が、この羊蹄山麓の町から生まれたことを誇らしく思います。そして、きちんと読めば、わかります。この偉大な作品が生まれるためには、この後志の大地がどうしても必要だったことが。

まずは「生れ出づる悩み」でしょうか。（今年は、「生れ出づる悩み」の登場人物「有島武郎」と「木田金次郎」の二人が出会ってから、ちょうど百年めの年なのだそうです）　これが大丈夫だったら、「カインの末裔」も読んでみてください。心がねじ曲がっている人間が読むわけではなし、若い感性が百年前の北海道に切り込んでゆくのです。汚い言葉や暴力表現があったとしても、そういう言葉や表現を学ぶわけではないでしょう。差別も貧困も戦争も飢餓もれっきと存在していた時代を強く生きた北海道人を正直に描きたいと思った有島のガッツはきっと伝わってくると信じています。

▲ ニセコ町・有島武郎記念館の「カインの末裔」碑

▲「生れ出づる悩み」碑がある岩内町・雷電海岸

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101　京極町字京極158番地1
TEL　0136-42-2700（代表）
FAX　0136-42-2032
E-Mail　yugakukan@town-kyogoku.jp

ホームページもご覧ください
http://lib-kyogoku.cubet.com/